

印利部

九農建(地)第 479 号

平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長 殿

九戸村長 岩 部 茂



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のありました件について、別紙のとおり提出いたしますのでよろしくお取り計い願います。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

地方の道路整備は未だ途上にあり、地域の実情に即した効率的な投資が必要となっている。

車の他に交通手段が無く、通勤・通学、仕事、レジャー等全てを車に頼っている。

車両の大型化が進んでおり、二車線化が必要な路線が増加している。

街中の歩道整備が遅れているのに比べて、人通りの少ない山間部等の歩道整備が進んでいる。

橋梁、排水施設、舗装の老朽化が進行しており、早急に適切な対応が急務となっている。

地方の道路は都会と比べ交通量が少ないが、その分耐用年数が長くなっており割高となつていない。

車中心の道路整備から、人にやさしい道づくりの推進。（昔から道が果してきた機能を回復。）

まち中心部の道路は、「人々の交流の場」「いこいの場」「地域活動の場」の中心として利用されてきた。

今でも、祭り・市・伝統行事等は昔ながらの沿道で行われている。

代替路線の整備、バイパス化等により、人々の生活空間としての道を確保する方策が必要となっている。

歩道等の交通安全施設の整備が進んでおらず、交通弱者に大きな負担が掛かっている。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

- ①地方道の改良舗装一車線の整備率は高いが、車両の大型化が進んでいる状況を考慮した二車線化が望まれている。
- ②街中の家屋が連坦している中心地区の歩道整備が遅れており、通勤通学、老人の通行に支障を来している。
- ③施設の老朽化が進んでおり、特に橋梁の修繕、更新が急務となっている
- ④冬季間の交通確保の為、車道・歩道の確実な除雪が望まれており、除雪体制整備が必要となっている。

○課題

- ①全面的な二車線改良舗装は財政的にきびしい。
補助事業での負担率が大きく財源確保が困難である。
補助採択要件の交通量・B/Cのクリアがきびしい。
- ②支障となる建物・物件が多数あり、移転もむずかしい。
補助事業での負担率が大きく財源確保が困難である。
補助採択要件の交通量・B/Cのクリアがきびしい。
事故件数は少ないが、人口割合にすると多い。
- ③現在、橋梁調査を委託しているが、人員・技術が不足しており、通常の維持修繕もむずかしい。
補助事業での負担率が大きく財源確保が困難である。
- ④人員・機械ともに不足しており、建設業者に委託も行っているが、工事の発注量が激減している中、対応できる業者は少ない。
機械の大型化により、生活道など狭い道の対応が困難である。

②-2 地域の目指すべき将来像

人・生活・経済を結ぶネットワーク交通網の整備

①地域と広域圏を結ぶ広域交通体系の整備

市町村合併の進展、生活圏の広域化、地域経済の強化等への対応を推進する。
病院等の公共施設の整理・統合に対応した交通手段の確立を目指す。

②生活に密着した道路整備の充実

人口流出・少子高齢化の中で、快適な生活環境整備により定住人口の拡大を推進する。
住民の緊急事態に備えて、緊急車両・除雪車等の通行路確保を図る。

③安全性に配慮した交通路の整備

老人・障害者に配慮した歩道等の整備、バリアフリー化を進める。
災害時の安全と交通路の確保を図る。

④ゆとりある道路整備の推進

祭・市・伝統行事を行う為のスペースを意識した整備を行う。
地区の交流、いこいの場としての機能を持つみちの整備を進める。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

岩手県九戸村

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	街中未整備道のバイパス化、歩道等整備	地元商店街の活性化 子供、老人の安全確保 伝統行事の維持継承 地域間交流の促進 通過車両の時間短縮	
災害に強い国土づくり	橋梁の耐震化、長寿命化	避難路の確保 救援物資輸送路の確保 上下水道等のライフライン確保	
少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	学校、病院、役場等公共施設に通じる幹線道路の整備	安心して産み育てる環境確保 到達時間短縮 登下校時の交通安全確保 老人軽車両等の安全確保	